

2026

4

真宗大谷派京都教区 教化広報誌

# 教区だより

第10回連載

## 「女性教化」の近・現代史を紐解く

—真宗大谷派の場合—

大谷大学文学部歴史学科教授 福島 栄寿 氏

特集

### 本の紹介コーナー

レポート

### 京都教区坊守会交流研修会

特集

### 「法話のいろは」

## 今、この時に、親鸞聖人に会う

長浜24組  
充滿寺

西野 健太郎 氏

# 「女性教化」の近・現代史を紐解く

— 真宗大谷派の場合 —

大谷大学文学部歴史学科教授

福島 栄寿



第10回

## 『家庭』誌が説いた理想的家庭

前号では、『家庭』誌上では、理想的な夫婦の役割分担について、男性は男らしく、女性は女らしくなければならぬという、ジェンダー規範に則った固定的な性別役割分担意識の現れが見られることを確認しました。

さて、先述したように、『家庭』誌は、「仏教主義婦人雑誌」を標榜していましたが、一般的なジェンダー規範だけではなく、さらに仏教・真宗に基づく理想的家庭像が説かれていました。以下、史料に基づきながら、その典型例を紹介したいと思います。

### 「小楽土」としての家庭

『家庭』第三巻第一号（明治三十六年一月）の巻頭の囲み欄には、同誌発刊後二年を振り返り、同誌の願いを再確認しています。そこには、次のように書かれています。

如来のみ国は遠く彼方にあり、私たちは容易にその風光に接することはできません。しかし幸いにも家庭によってこの世界と如来のみ国とは結ばれているのです。まことに家庭は如来のみ国にいたる通路なのです。

（筆者意識）

家庭は、「この世界と如来のみ国」とが結ばれる場

所だと言います。また、第三巻第五号（明治三十六年

五月）巻頭の論説「小楽土」には、次のようにあります。み仏の国は浄土とも言います。み仏の国の有様は、その美妙であり、その安穩であることはとても私たちの心に想像できませんが、ただ一つみ仏の国に似ている処があります。それは家庭です。（中略）家庭はまことに小楽土なのです。（筆者意識）

家庭は「小楽土」だと説きました。そして、同論説の結語では、

私たちは皆さんを率いて仏のみ国へ入ることに勤めますが、その第二手段として、家庭の改善を計り、小楽土を確立されることを強く望みます。

（筆者意識）

と、読者に呼びかけました。この「小楽土」である家庭こそが、目指すべき「真の家庭」でした。では、どうすれば「真の家庭」は実現するののか。第三巻第八号（明治三十六年八月）「永劫の霊泉」には、その方途が次のように説かれました。

家庭を真の家庭にするためには、（中略）仏の大家慈悲心を基礎としなくてはなりません。（中略）親子兄弟夫婦は、（中略）親も自分の心をすて仏心に依り、子も自分の心をすて仏心に依り、夫も

仏の心を心とし、妻も仏の心を心として、家内中が一つの仏の心で動くようになる。これが実に我等の理想の家庭であります。（筆者意識）

家父長制的で良妻賢母主義であった家庭はそのままに、さらに仏教を無邪気に盛込みながら、家庭内の問題を克服し、「真の家庭」を目指しなさいと説いたわけです。逆に言えば、家庭での苦悩は、仏の心を心として生きていない証だという説教にも読めます。

### 「家庭」の説教の特徴

『家庭』誌の論説の特徴の一つは、このように仏教用語を用いることでその論説を「正論」化し、「正しい」説教として読者に語りかけることにありました。果たして、読者女性たちは、こうした説教を聞き入れ、実践することは可能だったでしょうか。

家庭内の様々な問題にまつわる苦悩の多くが、ジェンダー規範が関係していたことを考えれば、苦悩の原因には目を向けず、仏の心という心の持ちようで克服すべきだという精神論は、あまりに無邪気で楽観的だと思えてなりません。



その心は？



出版部会 山城第2組 法泉寺 井上至

## 『容疑者Xの献身』

(著者：東野圭吾 出版社：文藝春秋)

△あらすじ▽

天才数学者でありながら不遇な日々を送っていた高校教師の石神は、一人娘と暮らす隣人の靖子に密かな想いを寄せていた。彼女たちが前夫を殺害したことを知った彼は、二人を救うため完全犯罪を企てる。だが皮肉にも、石神のかつての親友である物理学者の湯川学が、その謎に挑むことになる。ガリレオシリーズ初の長編、直木賞受賞作。(文春文庫版 裏面より)

「本の紹介」コーナー、第三回目で初めて小説の作品をご紹介します。著者の東野圭吾氏は、言わずと知れたベストセラー作家です。新型コロナウイルスが蔓延し出したころ、ふと思立ち、東野圭吾作品

を読み漁り、全作品を網羅しました。

今作は△あらすじ▽にもあるように、ガリレオシリーズの中の作品であり、第百三十四回の直木賞を受賞しています。ガリレオシリーズと言え、福山雅治主演でドラマ化されて、ご存じの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。本作は二〇〇八年に劇場版として映画化されています。

偏屈な物理学者である湯川でさえ「天才」と認める石神は数学以外に興味がなく、数学の研究者を目指すも家庭の事情で断念せざるを得なくなります。そして高校の数学教師になり、生徒に様々な場面で数学が必要だということとを力説するも伝わらず、やがて生きていく意味を失っていきます。

石神にとっては数学が全てであり、今の自分には存在価値がないと感じて、死ぬことを考えるようになります。そして首をつって自分の人生を終えようとした、正にその時に部屋チャイムがなります。隣に引越してきた二人の女性が挨拶に来たのです。それが靖子とその娘でした。

「二人を見た時、石神の身体を何か貫いた。」 (本作より引用)

この親子との出遇いによって、石神の人生は一変し、自殺願望もなくなったのです。△あらすじ▽には「靖子に密かな想いを」とありますが、これは決して単なる恋愛ということでは語れないのではないかと推測しています。靖子個人ではなく、親子に出遇ったことによって石神は変わったのです。劇場版においては、留置所へ連行される石神の回想で、学校に登校する靖子の娘が石神に声を掛けるシーンがあります。石神は慣れない様子で返答するのです。当たり前のような光景ですが、石神にとっては娘も生き方を変えてくれた存在だったのでしょうか。

「人は時に、健気に生きていくだけで、誰かを救っていることがある。」 (本作より引用)

親子は特別なことはしていません。ただ一生懸命に生きていただけです。でもその姿が、合理性だけで生きてきた石神の中の人間の部分を目覚めさせました。数学では証明できない感情です。

尊いものとの出遇いというのは思いがけないということ。そして人間の生き方を変えてしまうほどの力があることを示しています。これは真宗の教えにも通ずるのではないのでしょうか。

今作を小説、劇場版を合わせてご覧になることをお勧めいたします。



背面画像 (白馬八方尾根：映画『容疑者Xの献身』のクライマックスシーンのロケ地)

## 京都教区坊守会交流研修会

みんなで気づき、つくりあげる喜び 法話劇団「きづつき」

出版部会 近江第8組 上宮寺 早川 直子



2025年12月5日、京都市の常磐会館（教区会館）にて、京都教区坊守会交流研修会が開催されました。交流会では法話劇団「きづつき」による演劇が上演されました。

「色めがねが光る君へ」

劇団オリジナル作品「色めがねが光る君へ」は、あるお寺に集まった女性たちの会話（第一幕）、それを見守る菩提樹の「ムーさん」と生き物たちとの会話（第二幕）、そして歌とダンスで織りなす法話劇です。

天から降るような龍笛の音色が流れ、ソリストのダンスが劇の幕開けを飾ります。

ある日、坊守さんが境内の草むしりをしているところに、年齢も境遇もそれぞれに違う、四人の女性たちが次々と訪れます。そして家族や社会の価値観とぶつかり、解決できない疑問を語り

合います。夜、静まり返った境内で、菩提樹のムーさんのもとに草や金魚、きづつき、からすが集まります。ムーさんは人間の悩みを通じて、念仏の教えを語るのです。

劇の最後は観客もいっしょに体を動かして、ギターを生演奏に合わせ、ダンスと歌で締めくくられました。カーテンコールでは、熱演したキャストへのあたたかい拍手が会場に響きました。

日常の中に教えがある

劇団「きづつき」の結成は2024年4月で、今まで10回程度上演を重ねてこられました。団長である陵木法子さんにお話をうかがいました。

「法話を別の形で表現したいと思い、よく耳にする言葉を題材にして、身近にあることをシナリオでまとめました。団員と劇を作りあげるなか、上演ぎりぎりまでセリフも試行錯誤します」

「最初のダンスは舞台上に集中してもらうための仕掛けです。菩提樹のムーさんは、木の枝が腕を動かしているように団員が工夫して作りました。夜、ムーさんに明かりが灯っている造形は、『モチモチの木』（斎藤隆介作の絵本・岩崎書店）をイメージしたものです」

法話劇というユニークな表現について「聞法をしていくような、教えていたかどうかのような気持ちで、劇を団員と作っています。雑談もまた、聞法になると感じるときがあり、ムーさんのセリフは特に心を配って、回を重ねることに深めていっています」

今後の活動について「観客の皆さんからのアンケートが活動の励みです。練習は土日、月に2回くらい。お寺、宗派を超えて活動していきたい。全国行脚を目指します！」

劇中、ムーさんは『正信偈』のことで「煩惱障 眼雖不見 大悲無倦常 照我」を語ります。煩惱にまみれて曇ったまなこを通してしか物事を見られない私たちにこそ、それをいつくしみ悲しむ仏の教えが響いてくるのだと。肩ひじ張らない、ユーモアいっぱいのお話劇を見ているうちに、日常生活の中に教え

があるというメッセージが、お念仏申す声となって伝わってくるように感じた舞台でした。

## ●劇団「きづつき」

連絡先…(団長)

長浜第14組 長願寺 陵木法子

mail: norinno0902@yahoo.co.jp

法話劇団「きづつき」の名前は、「気づき」生活の中で仏さまの教えを皆さんと一緒に聞いていこうということ、キツツキが森で木をつつく音のように仏法が世の中に響き渡るようにという思いを兼ね合わせています。



ギターの生演奏に合わせ、観客と一緒にダンスと歌で盛り上がるフィナーレ

# 今、この時に、

# 親鸞聖人に会う



滋賀県

## 名を呼ぶことの大切さ

五村別院書記兼列座

長浜第24組 充滿寺

西野 健太郎



私たちは日々、多くの人と出会い、また別れを経験しながら生きています。その中で「名を呼ぶ」という、ごく当たり前の行いが、どれほどありがたく、また深い意味をもっているのかを、あらためて考えることは多くありません。

五村別院に職員として参らせていただくこととなり、私は歴史ある大きな御堂で、さまざまな御仏事をお勤めさせていただくようになりました。なかでも報恩講のお勤めは、私にとってあり

がたくもあり、同時に厳しい経験としてもあります。慣れ親しんだ正信偈・念仏・和讃を、報恩講では普段の草四句目下・三洵ではなく、真四句目下・五洵で勤めます。ゆつくりと勤めるとはいえ、節回しが変わり、声の高さも高くなります。さらに前後左右の方々の声に合わせて勤めるため、自分の限界まで声を張り上げなければ、まわりの声に合わせる事ができません。身体全体を使って、ただ精一杯、声を出し続けるのです。

別院に勤務し始めの頃は、なぜこれほどまでしなければならぬのかと、疑問に感じることもありましたが、しかし次第にその意味を、身をもって知らされるようになりました。そこでは、余計なことを考える余地がありません。うまく勤まっているかどうかを気にする間もなく、ただただ念仏を声に出す。そのうちに、自分が念仏を称えているのか、念仏に称えさせられているのか、その境目さえ分からなくなり、自分がお念仏そのものとなったかのような感覚に包まれることがあります。

私たちは、手をあわせ合掌しながら称える念仏を大切にしてきました。しかし、正信偈、念仏、和讃と続く勤行（声

明）そのものも、また称名念仏のはたらかきにほかならないのではないのでしょうか。

ご門徒のご法事、特に大切な方が亡くなられて勤めるお通夜から中陰でのお勤めにおいて、そのことを強く感じます。静かに始まる初重の念仏が、二重、三重と調子を上げていくにつれて、ご門徒の皆さんの声も自然と大きくなっていきます。誰かに促されるわけでもなく、それぞれの悲しみや思いを抱えたまま、声が重なり合っていくのです。その念仏の声は、今はもう呼ぶことのなくなった亡き人の名を呼ぶ声であり、そして同時に仏となられた故人さまから呼ばれている声でもあるのでしょうか。

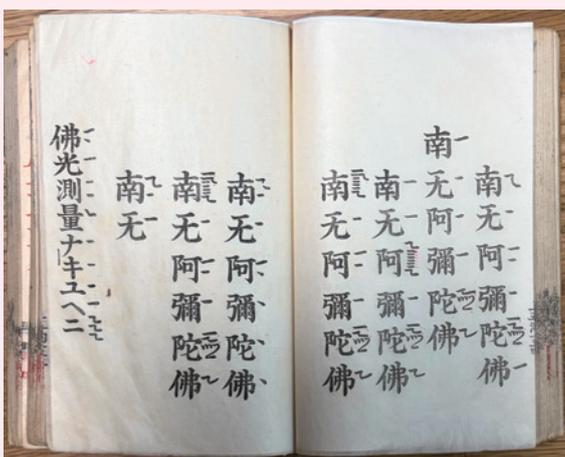
聖教に「名号をとらなるは、すなわち浄土を莊嚴するに成るとしるべしとなり」（『尊号真像銘文』『真宗聖典第二版』638頁）とあります。念仏を称えることは、浄土往生のための手立てではなく、今この身において、浄土を莊嚴するはたらきにあずかることでもあるのでしょう。

亡き人の名を呼ぶように阿弥陀仏の名を呼ぶ。その声が重なり合うところに、私と亡き人とが、ともに阿弥陀仏のはたらきの中に抱かれている世界が開

かれていくように思われます。

私たちは、『正信偈』を共に勤めることを習わしとしてきましたが、最近はお勤めの声小さくなってきたように感じます。上手に勤めることが目的ではありません。亡き人とともに、浄土を莊嚴するために声明するのです。

五村別院では同朋唱和を大事に心がけております。ぜひご参拝いただき、一緒に名を呼びましょう。



『大谷声明集成』発行・印刷 西村七兵衛

## 「法話のいろは」

「法話のいろは」からいただいたもの

近江第2組 浄安寺 治田 保男



去る1月27日、京都教務所大講堂にて、山城第2組仏教青年会主催で大谷大学名誉教授の沙加戸弘氏を講師として、「法話のいろは」が開催された。

今回の講義で、最も私の心に深く響いたのは、沙加戸先生の「我々は人の話を聞いていない。自分の都合に合うものしか聞いていないのだ」というお言葉であった。これまで私は、法話をどこか「自分のためになる知識」として選りながら聞いていた。しかし、それは「聞く」姿ではなく、自分の都合というフィルターを通して、教えを自分に合う形に変えて受け取っていただけに過ぎなかったのだと気づか



された。自分の物差しで教えを計り、納得できる部分だけを拾い上げていく限り、私はいつまでも自分の殻を破ることができない。その姿を先生の言葉が鋭く照らし出してくださった。

教えに触れるとき、時に殻を破れない「しんどさ」を覚えることがある。しかし講義の中で、「そのしんどさを抱えたままでいい」と言ってくくださる方がいることに、私は深く救われた。思い通りにならない自分をそのまま認めることこそ、如來のはたらきに照らされる入口なのだと感じた。そして、教えを「自分の言葉で語る」というのは、知識を覚えることではなく、自分の身に沁みた言葉として育てていくことではないかと思う。今回いただいた言葉を胸に置きながら、教えが少しずつ自分の形を成し、やがて本当に自分の言葉になるようにこれからも歩み続けていきたい。

## 男と女の平等って、なに？

「お寺の子」という言葉の先に

出版部会 近江第26組 浄安寺 藤野 勝



住職となり十七年ほどになり、今までいろんな出会いや経験を頂けたかなあと感じている。そのことは凄く大事で大切なものとなった。これからもそういった経験を増やしていけたらと思う。

しかしその一方で、自分自身が果たして「住職としてこれでもいいのか」という思いもある。私の中で一番引っ掛かっている事がある。長男がまだ小学生ぐらいの頃に、そんな本気モードではなく、軽く「次の住職やな」的な言葉を投げかけた時、息子から「なんで？」と返され、即返答できなかった。大体この質問自体軽々しく言う言葉ではないが、自分自身の中に明確に伝えないといけない事を持ち合わせていなかった。私の時はどうだったのかを振り返ってみると、それほど拒絶するような抵抗感もなかったが、多少なりとも不安は感じていた。

住職修習の最後で、抱負と決意を述べる合同座談においての思いは今でも大切になっている。研修道場の門を通った一歩は自分自身の一歩であり、誰かに無理やり引っ張られてきたわけではない、というような言葉だったと思う。その選択を否定してしまうことは、その時から続く今の私を否定してしまうように思う。

息子の放った「なんで？」という言葉は、単に相続継承ではなく、私自身がそのことに真正面に向き合えているか、を問われていると感じる。簡単に「お寺のおうちに生まれたからや」とだけは言わなかった。個々の人生やりたいことは様々な選択肢の嵐である。最適解を通らなければ負け組みみたいな方向性も違うように思う。とはいえ「なんで？」の問いかけは自分自身への大きな課題となった。

「初心、忘るべからず」と申しますが、

京都教区 4月の教区事業

8日(水)	9:30～17:00	真宗基礎講座 (Zoom 併用) (教区坊守会)	教区会館 2階 大講堂
8日(水)	15:00～17:00	声明会 (教区准堂衆会)	教区会館 3階 研修室
9日(木)	13:00～17:00	部落差別問題に学ぶ同朋協議会	教区会館 2階 大講堂・フィールドワーク
10日(金)	終日	親鸞ウォーク (教区仏教青年会)	京都市内
21日(火)	13:30～17:00	「是旃陀羅」問題教区学習会	しんらん交流館 2階大谷ホール
27日(月)	13:30～15:30	『教区だより』公開講演会	教区会館 2階 大講堂

京都教区 4月の教区諸会議

2日(木)	13:30～16:30	教化本部 企画室	教区会館 2階 大講堂
6日(月)	13:30～17:30	教化本部 研修講座部会	教区会館 3階 会議室
21日(火)	10:00～12:00	特区・地区教化委員長会	教区会館 2階 大講堂
23日(木)	13:30～16:30	教化本部 出版部会 編集会議	Web 会議 (Zoom)
24日(金)	13:00～16:00	教化本部 青少幼年部会	教区会館 3階 会議室
27日(月)	16:00～17:30	教化本部 出版部会	教区会館 2階 大講堂

教務所からのお知らせ

住職任命者

2026年3月6日

・長浜第13組 福願寺 藤野 佑心

住職任命者

2026年2月28日

- ・長浜第12組 證光寺 平野 聖貴
- ・近江第1組 善正寺 關根 良潤
- ・近江第3組 圓重寺 藤崎 篤
- ・近江第8組 行願寺 五莊 徹真

長浜教務支所の現金取扱い日について

長浜教務支所の現金取り扱いは、左記のとおりです。

- 4月6日(月) 4月20日(月)
- 5月11日(月) 5月25日(月)
- 6月8日(月) 6月22日(月)

教務所・教務支所閉所のお知らせ

2026年6月16日(火) から17日(水) まで

近畿連区所員研修のため、教務所・教務支所を閉所いたします。

緊急連絡先…  
080-6121-0737

教務所及び支所職員の業務分担について

↓「資料」↓「京都教務所員担当業務一覧表」に所員の担当業務を掲載しておりますので、ご活用ください。

「是旃陀羅」問題教区学習の開催について

開催日時 2026年4月21日(火)

午後1時30分～4時30分

参加方法 ①しんらん交流館、またはサテライト会場に来所して参加

講師 宮下晴輝師(前教学研究所長)

テキスト 『御同朋を生きる』

主催 教区教化委員会(発行 真宗大谷派宗務所)

主 催 教区教化委員会(企画室)

『教区だより』公開講演会の開催について

開催日時 2026年4月27日(月)

午後1時30分～3時30分

講師 橋本真師(本山企画調整局参事)

会場 教区会館2階大講堂

参加費 無料

依頼「令和6年能登半島地震」

災害に対する救援金の勧募について

2024年1月1日に発生した能登半島地震に対して、これまで、教区内のみならず、被災地の支援にご理解をたまり、救援金をお寄せいただいておりますこと、この場をお借りして御礼を申し上げます。

このたびの地震の影響を受けた北陸の地は、真宗門徒の多い地域であります。とりわけ震源地である能登地方は多くの寺院・ご門徒が甚大な被害を受け、今もなお深い悲しみと不安の日々を過ごされております。真宗大谷派として、今後も全力を傾注して支援策を講じてまいります。地震発生直後から、真宗大谷派寺院の被害状況や今日までの支援活動の様子などは、真宗大谷派Webサイト内でも随時お知らせ更新しております。また、公式SNS(X)でも発信しています。

京都教区としても、息の長い被災地支援を続けてまいりたいと存じます。なにとぞ趣旨をご賢察たまわり、救援金勧募などの被災地の支援に引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

真宗大谷派Webサイト内  
令和6年能登半島地震について

災害情報公式X(旧ツイッター)



京都教区別院 4月の行事予定

～ 4/ 8日 (水)	長 浜	大通寺馬酔木展	長浜別院
～ 5/17日 (日)	長 浜	早川鉄兵氏切り絵障子展示	長浜別院
6日 (月) 14:00～16:00	五 村	五日会連続講座 (第2回) 法話 東館 紹見 師 (東北教区 善林寺)	五村別院
6日 (月) 14:00～16:00	伏 見	声明作法講座 法話 浅井 誠 師 (山城第3組 皆演寺)	伏見別院
8日 (水) 10:00～11:30	長 浜	お勤め講習会 (第2回) 法話 別院列座	長浜別院
8日 (水) 13:30～15:30	山 科	同朋の会 法話 仁 宗寿 師 (京都教務所主事)	山科別院
10日 (金) 14:00～16:00	伏 見	伏見別院同朋会	伏見別院
13日 (月) 10:00～11:30	岡 崎	三日講「歎異抄を読む」法話 近藤 悠 師 (別院輪番)	岡崎別院
15日 (水) 14:00～16:00	赤野井	教如上人忌法要速夜 法話 安本 浩樹 師 (山陽四国教区 専光寺)	赤野井別院
16日 (木) 8:00～ 9:30	赤野井	教如上人忌法要晨朝 法話 安本 浩樹 師 (山陽四国教区 専光寺)	赤野井別院
16日 (木) 10:00～12:00	赤野井	教如上人忌法要日中 引き続き戦没者追弔法会 法話 安本 浩樹 師 (山陽四国教区 専光寺)	赤野井別院
19日 (日) 10:00～16:00	岡 崎	はなまつり	岡崎別院
23日 (木) 10:00～11:30	岡 崎	三日講 内容未定 法話 別院列座	岡崎別院
23日 (木) 14:00～16:00	大 津	同朋の会 聞法会 法話 日野 圭悟 師 (近江第2組 養蓮寺)	大津別院
25日 (土) 14:00～15:30	山 科	八代講兼定例法話 法話 北脇 隆昭 師 (別院列座)	山科別院
27日 (月) 12:00～13:00	赤野井	定例法要 (宗祖親鸞聖人御命日速夜) 法話 中川 眞 師 (別院輪番)	赤野井別院
27日 (月) 14:00～16:00	伏 見	ご命日のつどい 法話 藤井 洋 師 (山城第1組 閑唱寺)	伏見別院
28日 (火) 13:30～16:00	五 村	しんらん講座 (第3回) 法話 訓覇 浩 師 (讃岐教区 金藏寺)	五村別院

# 京都教区 公式SNSあります

公式SNSで更新情報などを配信しています。1,000カ寺を超える寺院・教会がある京都教区ですが、登録者数はまだまだ少ないです！ぜひご登録をお願いします！



LINE公式アカウント  
2026年3月16日現在  
登録者数290名  
LINE ID @441foywe



Facebook, Instagramもちろんあります！

## 編集集後記

唐の詩人劉希夷は、詩「代悲白頭翁」で、「年年歳歳花相似たり、歳歳年年人同じからず」(『唐詩選』) 頭が白くなって初めて不可逆な時の移ろいに気づいたと嘆く老翁を描きます。年々歳歳に、浄土に還られた人、ご縁が尽きてお会いしなくなった人。お別れしてきた人ひとりひとりに抱く思いはさまざまですが、法縁のなかでは、その人とも出遇い直して、新たな意味をいただいくこともできるように感じます。  
(出版部会 早川直子)

## 教区だより表紙写真大募集！！

本誌表紙写真を大募集いたします！  
テーマは宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要テーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。  
詳しくは京都教務所まで。  
お待ちしております！



【表紙の写真】「カルガモ親子」(水谷隆彦/伏見別院門徒)

